

ヤシヤビシャク	<i>Ribes ambiguum</i> Maxim.	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:準絶滅危惧)		ユキノシタ科
選定理由	大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が大幅に減少している。	写真(後藤常明)
形態の特徴	高さ1mほどの落葉低木。葉は円心形、長さ幅ともに3-5cmで1-3cmの柄をつけ、葉縁は3-5浅裂し、裂片が鈍頭で欠刻状の鈍鋸歯がある。直径約1cmの淡緑白色の両性花は5数性で1-数个束生する。葉や緑色の液果に毛がある。	
生態的特徴	発達した温帯林のブナやミズナラなど老木上に着生し、4-6月に花をつける。熟した果実は鳥など小動物の餌となり、腐葉土が積もる太い枝の分岐した所や腐朽した窪みに運ばれた種子が発芽、生育する。地上で発芽したものは種子が熟す前に枝ごと他の動物の餌となり、成木になることは少ないものと推察される。	
分布状況	本州、四国、九州、国外では中国大陸西部に分布する。岐阜県においては飛騨地方および美濃地方西部と東部に分布する。	
減少要因	本種は大木の樹上で生育するため、大木の伐採が減少の要因となる。また、園芸用に採取されるため、低い箇所の着生株は残っていない。	
保全対策	生育環境の保全、創出と採取の制限。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔他編集(1989)日本の野生植物 木本Ⅰ:p.160. 平凡社 岐阜県健康福祉環境部自然環境森林課編集(2001)岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物—岐阜県レッドデータブック—:p.78. 岐阜県 矢原徹一監修(2003)ヤマケイ情報箱レッドデータプランツ:P.296. 山と溪谷社	

文責:後藤常明